

農福連携の現状

- 農福連携は、障害者の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組。
- 様々な種類の作物が生産・加工・販売され、多様な作業が必要となる農業現場では、個々の特性に合った作業との出会いによって、障害者も農業の貴重な働き手となるとともに、工賃の向上等を通じた生活の質の向上も実現。
- 現場では、障害者以外の社会的に支援が必要な人たちも農業に参画し、地域社会を構成。

「農」と福祉(障害者)の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
〔基幹的農業従事者は
20年間で約4割減少〕
- ・荒廃農地の解消 等
〔再生利用可能な荒廃農地
は全国で約9万ha〕

【福祉(障害者)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
〔障害者約1160万人のうち
雇用施策対象となるのは
約480万人、うち雇用(就労)
しているのは約114万人〕
- ・工賃の引き上げ 等

【農福連携の推進】 事例①②

障害者が持てる能力を発揮し、農業生産活動に参画



【「福」の広がりへの支援】 事例③

障害者以外の社会的に支援が必要な人たちも
農業に就労し地域社会を構成

農福連携等

①農業経営体が障害者を雇用 京丸園緑(静岡県浜松市)

- 平成8年から毎年1名以上の障害者を新規雇用。従業員102名中、障害者は24名
- 障害者視点で農作業の体制を整備。作業効率化が進み、経営規模と生産量が拡大
- 障害者雇用数に比例し売上増加(25年間で6.5倍に拡大)



誰でも正確な作業ができるよう器具を工夫

②障害者就労施設が農業参入 社会福祉法人ゆずりは会菜の花(群馬県前橋市)

- 施設を利用する障害者約20名以上が全員、年間を通じて農作業に従事
- 認定農業者・地元JAの正組合員として地域農業の重要な担い手に
- 平均工賃は7.6万円となり、県平均の約4倍を実現(R4)



個々の特性に合う作業を割り当て

③多様な人材が農業で活躍 社会福祉法人白鳩会(鹿児島県南大隅町)

- 過疎化が急速に進む地域において、事務所出所者等も含めた多様な人材が、個々の特性に合わせて、農業生産、加工・販売、レストラン等の業務に従事。
- 地域の高齢農家から農地を引き受け、耕作面積は38haに拡大

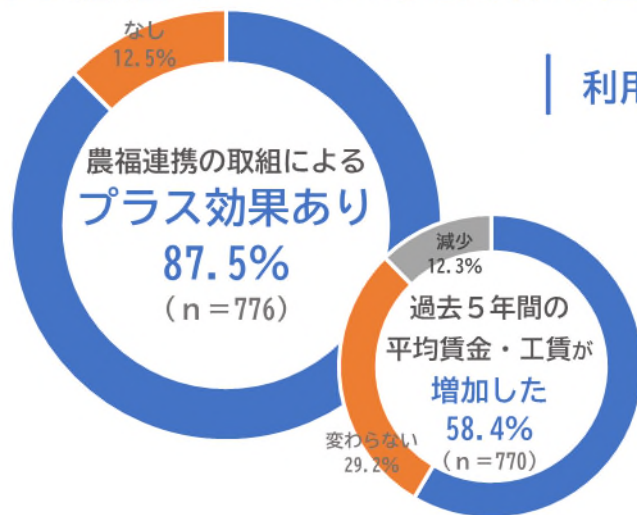


茶の収穫機操縦を障害者が実施

農福連携の効果と課題

○農業側、福祉側ともに、農福連携によりプラスの効果のあることを実感。

1. 福祉サービス事業所の回答



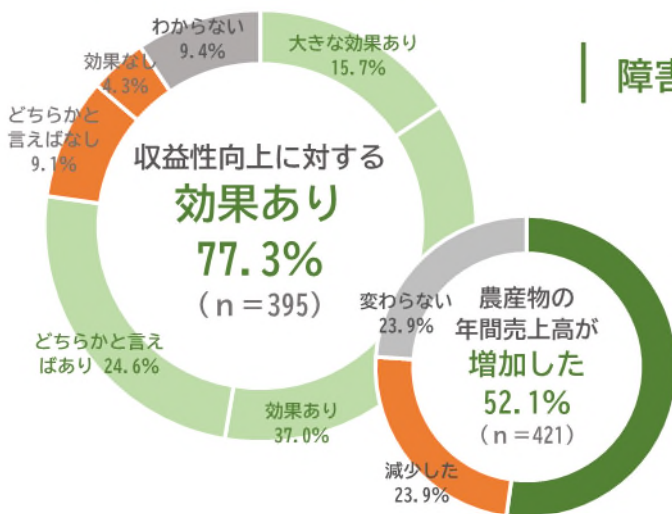
利用者へのプラス効果

- ・ 80.5%が「体力がついて長い時間働けるようになった」と回答(n = 549)
- ・ 58.3%が「表情が明るくなった」と回答(n = 655)
- ・ 46.5%が「コミュニケーション力が高まった」と回答(n = 649)

農福連携を進める上での課題 (n = 808)

販路の確保	49.6
障がい者等の適性に応じた作業の創出	48.5
農産物等の安定生産	46.9
農作業中のトイレの確保	43.9
通年で農作業等の創出	43.9
農業技術の習得	41.3

2. 農業経営体の回答



障害者等を受け入れることの効果 (n = 424)

- ・ 56.4%が「障害者等が貴重な戦力となった」と認識
- ・ 55.7%が「労働力確保で営業等の時間が増加」と認識
- ・ 31.6%が「品質の向上や収量の増加につながった」と認識

障害者等を受け入れる上での課題 (n = 422)

労働時間と農作業の調整等、スケジュールの調整	44.3
通年で働いてもらうための作業の創出	42.4
農作業の手順や技術を教えること	41.5
ほ場でのトイレ・休憩所の確保	37.2
農作業中の障がい者等の健康・安全管理	36.0
コミュニケーション	32.9

農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)に基づく施策の推進方向について

- 「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」「令和6年6月5日農福連携等推進会議決定)に基づき、「地域で広げる」「未来に広げる」「絆を広げる」を新たなスローガンに、「農福連携等を通じた地域共生社会の実現」を目指して、法務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省が連携した施策を推進。



詳しくは
こちらを
ご覧ください

農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)の概要

地域で広げる

未来に広げる

絆を広げる

- 地域協議会や伴走型コーディネーターの活動を通じて、地域単位の推進体制づくりを後押し
- 生産施設等の整備やスマート農業技術等の活用
- 地域での多様な連携やノウフク商品のブランド化
- 現場で農業と福祉をつなぐ専門人材の育成
- 農業の担い手や農業高校の生徒等への普及
- 特別支援学校の実技・実習要望に対する農業者による協力・支援
- ノウフクの日(11月29日)等による企業・消費者も巻き込んだ国民的運動の展開
- 社会的に支援が必要な人たちの農業での就労
- 世代や障害の有無を超えた多様な者の交流・参画の場としてのユニバーサル農園の拡大
- 林福・水福連携の推進

● 地域協議会の体制イメージ

都道府県振興局、市町村、農業・福祉関係者、教育機関等が参画

● 地域協議会で想定される取組

- ・ 農業と福祉のネットワークづくり (交流会、体験会等)
- ・ 地域内の農福連携のルールづくり (作業単価の設定等)
- ・ マッチングや農業実習の受入れ
- ・ 事業者間で共同した販路開拓 等



恵庭市農福連携ネットワーク(北海道)



大隅半島ノウフクコンソーシアム(鹿児島県)

● ユニバーサル農園とは

世代や障害の有無を超えた多様な者の交流・参画、健康増進、生きがいづくり、職業訓練、立ち直りなど、農業体験活動を通じて多様な社会的課題の解決につながる場



NPO法人土と風の舎
こえどファーム(埼玉県)

農福連携等を通じた地域共生社会の実現

KPI

2030年度までに、4省庁が連携して、農福連携等の取組主体数を12,000件以上、地域協議会に参加する市町村数を200以上とする

ノウフク・アワードについて

- 全国で農福連携に取り組む団体・企業や個人を募集し、農福連携の優れた取組をノウフク・アワードとして表彰。国民運動としての機運を高め、農福連携の全国的な展開につなげることを目的として開催。
- 令和2年度にノウフク・アワード2020を初開催し、「みんなで耕そう！」をスローガンに、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」との観点から優れた取組を表彰。
- これまでの4年間で、のべ88件(40都道府県)が受賞。

取組概要

- ・応募対象:全国で農福連携に取り組んでいる団体等
- ・選定方法:「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」との観点から、優れた取組に対して以下の賞を授与
「グランプリ」、「準グランプリ」、「優秀賞」
「フレッシュ賞」(取組開始5年以内の優れた取組)
「チャレンジ賞」(「農」や「福」の広がりに向けた取組)
- ・審査員: 中嶋 康博 ``東京大学大学院農学生命科学研究科教授(審査員長)
濱田 健司 ``東海大学文理総合学部教授
松森 果林 ``ユニバーサルデザインアドバイザー
村木 厚子 ``津田塾大学総合政策学部客員教授
米田 雅子 ``東京工業大学環境・社会理工学院特任教授
- ・主催:農福連携等応援コンソーシアム(事務局:農林水産省)

農福連携の優れた取組の横展開へ



「ノウフク・アワード2023」表彰24団体

No.1 長野県 松川町

株式会社ウィズファーム

- ・障害者の工賃向上をめざして農業法人を設立し、地域の荒廃農地を積極的に借り入れ、地域の中心的な担い手に成長
- ・ノウフクJASの初めての認証事業者として農福連携の認知度向上と販路拡大に貢献

グランプリ

No.3 広島県 広島市

広島県立広島特別支援学校

- ・生徒の障害特性ごとに配慮した農作業を指導
- ・近隣の農業高校から技術指導を受けて、学校内の圃場で農業を実施し、地域の高齢者に販売
- ・障害を持つ生徒が、地域の小学校で児童への農作業指導を実施

準グランプリ
(人を耕す)

No.5 福井県 あわら市

有限会社あわら農楽ファーム

- ・全国に先がけてスマート農業を活用した農福連携（障害者がロボット田植機による田植えや、アシスト付コンバインによる稲刈り等を実施）を行い、農地面積は85haに拡大
- ・地域農家の農作業受託や除草作業を障害者が実施

準グランプリ
(未来を耕す)

No.6 宮城県 松島町

有限会社F.F磯崎

- ・地域の就労継続支援A型事業所から、約20名の障害者を受け入れ、水稻栽培（約60ha）や牡蠣の養殖を実施

優秀賞

No.7 茨城県 つくば市

NPO法人ユアフィールドつくば

- ・約15haの荒廃農地を再生し、障害の種別や年齢も様々な約100名の障害者が農作業を実施

優秀賞

No.8 岐阜県 岐阜市

株式会社LSふぁーむ

- ・農業や6次産業化製品の製造などの各作業ごとに障害者の中からリーダーを任命しており、障害者が商品開発にも従事

優秀賞

No.9 三重県 松阪市

社会福祉法人まつさか福祉会

- ・高収益のいちご栽培や6次産業化などにより、生活介護などの重度障害者を含めた工賃向上を実現。ASIAGAPも取得

優秀賞

No.10 京都府 京都市

株式会社しんやさい

- ・職業訓練により正規雇用ステップアップした障害者が、ジョブコーチの資格を取得し、若手障害者の指導を実施

優秀賞

No.2 奈良県 奈良市

社会福祉法人青葉仁会

- ・農業のほか、加工業、販売業などの様々な業種の作業を通じて障害者の成長や経済的自立を支援し、40名以上が一般就労に移行
- ・過疎化が進む地域においてカフェ、レストラン、観光農園の運営、廃校の活用など、多角的に事業を展開

グランプリ

No.4 福岡県 久留米市

一般社団法人THE CHALLENGED

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等の多様な人材が活躍できる環境を整備し、10名以上が一般就労に移行
- ・認定農業者として地域最大級の花き生産者となつとともに、地域の約170件の農家から受託した作業を障害者等が実施

準グランプリ
(地域を耕す)



No.11 岡山県 岡山市

株式会社おおもりの農園

- ・新規就農後、自ら就労継続支援A型事業所を設立し、障害者に農作業を安定的に担ってもらうことで農地面積を拡大

優秀賞

No.12 大分県 竹田市

社会福祉法人博愛会

- ・農業に加えて、コミュニティレストランの開設、交通手段を持たない高齢者対象の無料送迎、地域の祭りの復活等を実施

優秀賞

No.13 北海道 札幌市

株式会社ファーストマインド

- ・JA等と連携した地域の農作業の受託に加えて、地域の水路の掃除、草刈り、除雪を障害者が実施

フレッシュ賞

No.14 静岡県 浜松市

ひらまつファーム

- ・個人農家として、福祉事業所に作業委託を行うことで、栽培面積の拡大、収益向上を実現

フレッシュ賞

No.16 高知県 安芸市

一般社団法人こうち絆ファーム

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等を受け入れ農業を実施し、新規就農者も誕生

フレッシュ賞

No.18 北海道 当別町

社会福祉法人ゆうゆう

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、認知症高齢者、地域住民等が農業や林業を通して交流

チャレンジ賞

No.15 岐阜県 岐阜市

全国農業協同組合連合会岐阜県本部

- ・JA全農の直営農場において、直接雇用した障害者がいちご栽培を実施し、地域のいちご部会にも入会

フレッシュ賞

No.17 宮崎県 高千穂町

株式会社杉本商店

- ・椎茸専門問屋として、原木椎茸の栽培や加工を福祉事業所に委託し、23カ国に輸出

フレッシュ賞

No.20 大阪府 高槻市

特定非営利活動法人たかつき

- ・認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくりや、健康維持、増進に向けた園芸療法を実施

チャレンジ賞

No.23 福岡県 福岡市

一般社団法人社会福祉支援協会

- ・人手不足で廃業寸前であった水産加工業会社の事業を承継し、障害者が担い手として作業に従事

チャレンジ賞

No.19 東京都 世田谷区

夢育て農園

- ・農作業を通じた知的・発達障害者の認知発達プログラムを提供し、定量的な効果測定も実施

チャレンジ賞

No.22 愛媛県 伊予市

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班

- ・地域の福祉団体と連携して、障害者や高齢者と共に農作業を実施。地域企業と連携して新商品を開発

チャレンジ賞

No.21 奈良県 橿原市

一般財団法人かがやきホーム

- ・奈良県が設立した更生支援施設で、刑務所出所者を雇用し、森林組合等で研修を実施

チャレンジ賞

No.24 沖縄県 北中城村

合同会社ソルファコミュニティ

- ・荒廃農地を再生して、障害者が国内で珍しいバニラ栽培を実施。地域の中心経営体として位置づけ

チャレンジ賞

広島県立 広島特別支援学校

(広島県広島市)



生徒の障がい特性に配慮した農作業を実施しているほか、近隣の農業高校との交流や地域の高齢者への農産物販売、障がいを持つ生徒による地域の小学生への農作業指導などにより、農業を通じた生徒の社会参画を図っています。

概要

- 全ての生徒が、自信や生きがいをもち、自立と社会参加を実現することを目的に、作業学習【農業】の授業において、学校内のほ場で農作業を実施しています。
- 生徒の健康に配慮し、土ふりや堆肥作りなどを行う屋根付き小屋を整備するとともに、車いすの生徒でも作業ができる水耕栽培を行うなど、どのような障がい特性であっても安全かつ健康的に農作業ができる体制を整備しています。
- 地域の公民館と連携し、定期的な野菜の販売を行うとともに、近隣住民を対象にした野菜の訪問販売も行っています。
- 学校見学会等での来校者、近隣の小学校やインターナショナルスクールの児童による収穫体験などを実施しており、生徒が収穫や袋詰めの手を説明する場を設けています。
- 県内の農業を専門とする高等学校と連携し、土壌調査を依頼するなど生徒同士が学び合う場を設けています。

成果

人を耕す

生徒が地域の児童に農作業を教えることで、障がいへの理解促進につながるとともに、教える立場の生徒にとっても自己有用感を得る機会となっています。

地域を耕す

来校者を対象とした収穫体験、近隣の高齢者への訪問販売等を通じて地域住民や関係者との連携が深まるとともに、地域コミュニティの維持・発展に貢献しています。

未来を耕す

農作業を通して、就労に必要な基本的な態度や意欲を身に付け、様々な職種への就労につながっています。また、地域との関わりの中で、生徒は支えられるだけでなく、地域を支える存在としての自信を持つきっかけとなっています。